【様式 3】

平成２８年度岡山ＥＳＤ推進協議会
岡山ＥＳＤプロジェクト活動支援助成金事業報告書

事業名　　子どもからはじまる多文化共生

団体名　結ふ＝YOU 多文化共生センターおかやま　　担当者名　大倉美恵

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

１．活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）
実施日：4月25日（岡山 ESD プロジェクト活動支援事業対象前で実施）、5月27日 6月24日、7月15日、9月30日、10月28日、12月2日、2月3日 時間　：１５：４５～１６：４５ 場所：清輝小学校学童保育「杉の子学級」 参加人数：6月～2月まで７回　のべ　２１６人 内容：韓国（4回　4月～7月） マレーシア（3回　9月～12月） 台湾（1回　2月） 詳細は別紙参照 大まかな活動： 〇各国のあいさつの言葉を知る 〇外国の言葉や文化、習慣について話を聞く 〇外国の歌や踊りを体験する 〇外国の遊びを体験する 〇外国の言葉のリズムや流れを味わうために各国の絵本読みきかせを聞く   韓国語のあいさつを教えてもらう   ハングル文字を習う

マレーシアの歌と踊りを教えてもらう

マレーシアジャンケンで順番を決める

台湾の絵本の読み聞かせ

2．ESD の視点を取り入れたところ、ESD の視点で見直したところ

・子どもが外国の言葉や文化、遊びを通して多文化の楽しさを体験することで、世界への興味を持ったグローバルな感性を養う
・主体的な活動を通して学びの楽しさを味わう
・多文化を体験することで多様な価値を感じ、多様性を身につける機会とする
・毎回の報告を清輝小学校、清輝学区連合町内会長に届けることで地域における多文化共生の理解を進める
・会場として清輝児童センターを利用するなど、地域団体の連携を作る
・子ども、学童保育の担当者、児童センターの職員など子どもの活動を中心にしての広がりを作り、外国の人と直接に出会うことで今まで知らなかった気付きを生む
・講師の外国人、学童保育の担当者、それぞれが子どもの活動について意見を出し合う場を設けて、複眼的な視点を活動に取り入れる
・講師となった外国人が連続の講座運営により、子どもの反応によるフィードバックをかけて教材を用意する機会を作り、外国人自身も学びを体験する

3．取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

・子どもは外国の言葉など、新しい音やリズムに触れることができた

・韓国に興味のあった子どもは、「ハングル文字のあいうえお表」を作ってきて、と講師に頼むなど興味を行動につなげることができた
・ジャンケンも外国によっては違うことを知り、子どもがマレーシアジャンケンで勝負するなど多様性を感じることができた
・子ども自身は外国の遊びを楽しんでいたが、それを見守っていた学童保育の担当者や児童センター職員などが外国の人と出会って新しい発見や今までの思い込みに気付くことができた
・毎回の事業報告書を小学校・連合町内会長へ届けたことで、外国人と子ども達の出会いへの理解が進んだ「今度は〇〇の国の人が来るんだね」「こないだの国はどうだった」などの声をもらい大人への普及を感じた
・講師の外国人が子どもの反応で教材を作り直すなど、外国人にとっても学びの機会となり新しい教材作成などエンパワーメントにつながった
・講師から「自分の国のことをこんなに楽しんでくれてうれし」との言葉があったように双方向の多文化共生の楽しさを感じることができた
・外国の言葉や文化、遊びを学ぶための教材開発ができた
・連続講座であったために講師・子どもともに年間のリズムの中に定着することができた
・学童保育の担当者より、来年度の活動の継続をのぞまれている

4．今後の課題と展望

・外国のあいさつの言葉を定着させるように言葉カードなどさらに教材に工夫が必要
・今回の講師は女性がほとんどで年齢的にも大人だったが、しっかりと体を使った体験ができるように講師の人選を考えたり、多国籍の子ども集団を作るなども子ども同士の響きあいの場を作ることもしたい
・外国の文化のなかに日本文化を入れるなど、日本の子どもたちが教える側に回る体験も作っていきたい
・絵本の読み聞かせとともに、簡単な外国語劇も取り入れたり、受動の活動と発信の活動の組み合わせを作っていきたい
・今回はアジアの国の紹介だったので視覚的なインパクトが弱かったかもしれないとの声もあり、次回はそのことも考慮した講師を選びたい